

# 提 言

## 「際立つ滋賀」へー際立たせるのは地域資源

～グリーン経済(持続可能な経済)のトップランナー滋賀を目指して～

平成 27 年 3 月 24 日  
滋 賀 経 済 同 友 会  
滋賀ビジョン 2020 研究会

## 【はじめに】

「アベノミクス」の始動により、日本経済はようやく失われた20年から脱却しようとしています。青色LED開発によるノーベル賞受賞に象徴されるように、日本の科学・技術や安全性、独自の文化など、日本クオリティが再評価されつつあります。その一方、少子高齢化に伴う人口減少社会が現実のものとなり、昨年は消滅自治体が話題となりました。人口減少の影響は年金・医療問題や財政問題、労働力不足など様々な形で顕在化しつつあります。

国内で数少ない人口増加県として、第2次産業を中心に順調に発展してきた滋賀県においても、本研究会がスタートしたまさに2014年、予想より早く人口減少社会を迎えることが確実となりました。リーマンショック以降、大手進出企業の設備投資は海外シフトが進み、足もと変化は見られるものの、過去の延長線上での発展は見込めない状況となっています。公的債務残高が限界値を超える危機的状況を踏まえれば、公的セクターに対する過度な依存も期待できません。今まさに「右肩上がり社会」から「持続可能な安定・安心社会」へのモデルチェンジが求められているのです。

## 【本研究会のめざすもの】

こうした時代の転換期にあって、滋賀県の持つポテンシャルを今一度再認識し、地域資源（活かし切れていない地域資源＝ひと・もの・情報etc）を活かしつつ、ときには痛みを分かちあいながら、将来へ向けて自立した社会を再構築することこそ次世代にバトンを渡す我々の使命と考えます。

幸いなことに滋賀県は私たちの日々の営みを直截（ちよくせつ）に映す琵琶湖を抱え、自然と人との調和を重んじる文化を育てるにふさわしい環境に恵まれています。私たち滋賀経済同友会も“経済と環境の両立”を基軸として、持続的成長を図る戦略について、先進的に研究、提言に取り組んできました。これらの先人による集積には2020年以降の社会や経済を展望するとき、滋賀の大きな指針になるものが多く含まれています。

本研究会はこれらの提言を踏まえた上で、30年後そして50年後に滋賀が我が国の「グリーン経済(持続可能な経済)のトップランナー」になるために、2020年までに何に取り組むべきか、をテーマに5回の講演・研究会で議論をすすめてまいりました。

## 【プロジェクトXとは】

本研究会では、「際立つ滋賀」に向けてのメインテーマは「際立たせるのは地域資源」とし、具体的には「2020年においても人口(定住人口+交流人口)が増加する元気な滋賀」を目指していくことで方向性の一致を見ました。そのためには、環境・エネルギーが持続可能であり、地域や文化が持続可能であり、もちろん産業が持続可能(元気)でなければなりません。

そこで、高度成長期から今日に至るまで、県経済を支えてきた産業集積や滋賀県が持つ固有の歴史・文化・自然環境・人材・立地etcを今一度見つめ直し、次の時代に向けて滋賀が国内外に発信する創造的な取り組みとして絞り込んだ10のプロジェクトを「滋賀2020プロジェクトX」と名付け、提案させていただくものです。

# 【テーマ】「際立つ滋賀」へ ー 際立たせるのは地域資源

2020年においても人口(定住人口+交流人口)が増えているような元気な滋賀県を目指す！！

## 滋賀2020プロジェクトX＝地域資源を発掘・活用し、実践・実現すべき10の提案

	プロジェクト名	目指すべき姿	実現可能な施策	具体的な取り組み
I	グリーン経済クラスター形成	水・環境・医療・健康クラスターの形成	「産・学・官・金」の連携とオープンイノベーションの実現できる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水、環境ビジネス特区制度を導入</li> <li>・サロン等オープンな場の整備</li> </ul>
II	NIPPONの「腰」	日本の物流・情報拠点として交通インフラの整備、充実と防災対策、高速通信網の整備	ハイテク企業、研究機関の誘致のためインフラ整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新幹線新駅を含めた鉄道網の充実</li> <li>・京滋トンネルの実現(情報・物流)</li> </ul>
III	「ものづくり学」拠点	「ものづくり」分野に関する教育・研究機関の集積と魅力ある教育機関の新設	教育機関と地元企業との連携強化。地元で学び、地元で働く、U・Iターンで働く機会創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力ある専門高校、進学校の創出</li> <li>・インストラクター養成スクールの充実</li> </ul>
IV	人・好循環	若者、女性、シニアが「生き生き」と将来に希望を持ちながら働ける環境整備	企業、行政等女性、シニアの積極採用・登用の実施。学生と企業との接点強化。子育て世代支援。将来に希望が持てる社会風土の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性活躍の見える化</li> <li>・スタートアップビレッジの開設</li> </ul>
V	滋賀の魅力発信	歴史、文化、自然、産業の満喫できる環境県。日本・世界に発信	歴史ある文化遺産、自然、魅力発見プログラム設置と「近江のおもてなし」の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光ボランティア組織の充実</li> <li>・外国人に解りやすい観光案内の整備</li> <li>・伝統地場産業の育成、ブランド化</li> </ul>
VI	近江商人のスピリッツ	近江商人の思想・行動哲学に学び、愛着と夢をもてる人材育成	近江商人学習カリキュラムの作成と研究・発信拠点の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・滋賀に愛着を持つ教育カリキュラム導入</li> <li>・近江商人ルーツ企業ネットワーク構築</li> </ul>
VII	環境教育No.1	大量消費型社会から持続可能な人にやさしい環境配慮型社会の実現とグローバル化	琵琶湖の水を利用している近畿圏にも環境・水の大切さの学習機会をつくり、海外にも発信していく	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界トップクラスの環境学習施設の整備</li> <li>・学習船「うみのこ」の広域活用</li> </ul>
VIII	近江みのりビジネス	近畿圏、中京圏に近接する立地を活かし、アグリビジネス先進県となる	国内外の需要に対し、新技術やICTを活用して、環境にやさしく、こだわり農業を実践していく	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アグリビジネスネットワークの構築</li> <li>・「近江の食」のブランド化</li> </ul>
IX	地域を元気に	スポーツ、文化を通じて地域を元気にしていく	スポーツ・文化施設の効率的整備と特徴ある整備。スペシャリストな人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国体を見据えた多目的アリーナ、Jリーグ開催可能施設の新設</li> <li>・アスリート支援組織の創設</li> <li>・スポーツで県民健康づくり</li> </ul>
X	連携プラットフォーム	埋もれた資源の発掘、ネットワーク化、点から面への具体的展開	産・学・官・金が連携、長期視点に立ち滋賀の将来像を常に検討・発信をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知事直属の地域プラットフォーム</li> <li>・チーム近江来(Oh MIRAI) 2020の設置</li> <li>・ビジョンを共有するネットワーク(新しい絆)の構築</li> </ul>

## 【実現に向けて】

2020年開催の東京オリンピック・パラリンピック、滋賀県では2024年に開催される国体等、国民・県民の意識を一体化し時代のメルクマールとなるであろうビッグイベントが予定されています。また本年はアベノミクスの第3の矢の中心的施策である地方創生の具体化がスタートする年でもあります。21世紀滋賀を発展させるための数少ないチャンスとして、企業や各団体が将来を見据えた取り組みを始動する絶好のタイミングです。

「際立つ滋賀」の実現にむけて「産・学・官・金＋地域」がオープンな議論と連携・協力を行い、単なる「ない」ものねだりを廃し、「ある」ものを際立たせ、その上で滋賀に「必要」な施策を県民総意のもとで創りあげていくことが求められています。

公的セクターだけに依存せず、各セクターが主体性をもって参加する強力で開かれた組織（チーム近江来[Oh MIRAI]2020)の必要性もあわせて提言させていただきました。県の基本構想や産業振興ビジョンが策定され、実施段階を迎えます。この提言がその一助となれば幸いです。

以上